

## 小中一貫校（義務教育学校）におけるメリット・デメリット

### ※「義務教育学校」とは

学校教育制度の多様化と弾力化を推進するため、小学校から中学校までの義務教育を一人の校長と一つの教職員組織が9年間の学校教育目標を決め、一貫した教育を行うことを趣旨とし2016年（平成28年）から制度化された新たな学校種のこと。

### ※「義務教育学校」と「小中一貫校」の違い

小中一貫校が小学校・中学校にそれぞれ校長や教職員組織が立てられているのに対し、義務教育学校は小学校・中学校通して一人の校長、一つの組織となっていることが大きな違い。

### 小中一貫教育のメリット（補足）

●教科担任制による専門性の高い指導と教員の負担減（小学校教員にとっては、特に英語）。

### 愛媛県での導入事例（R6）

学校名	区分	形態	規模	組織
上島町立 魚島小・中学校	施設一体型	小中一貫校	小学校3人(教員2人) 中学校7人(教員4人)	校長(小学校)、教頭(中学校)がそれぞれ兼務
四国中央市立 新宮小・中学校	施設一体型	小中連携校	小学校53人(教員9人) 中学校27人(教員10人)	校長1名(中学校)が小・中を兼任。教頭はそれぞれに配置
新居浜市立 別子小・中学校	施設隣接型	小中連携校	小学校3人(教員3人) 中学校19人(教員10人)	校長・教頭がそれぞれ兼務
松山市立 興居島小・中学校	施設隣接型	小中連携校	小学校31人(教員6人) 中学校21人(教員10人)	
松山市立 日浦小・中学校	施設隣接型	小中連携校	小学校42人(教員8人) 中学校21人(教員11人)	
大洲市立 平野小・中学校	施設隣接型	小中連携校	小学校69人(教員11人) 中学校37人(教員9人)	小中学校にそれぞれ校長配置
鬼北町立 日吉小・中学校	施設隣接型	小中連携校	小学校24人(教員8人) 中学校10人(教員8人)	小中学校にそれぞれ校長配置。教育課程特例校（乗り入れ）
高知県宿毛市愛媛県南 宇和郡愛南町篠山小中 学校組合立 篠山小・中学校	施設一体型	小中連携校	小学校3人(教員2人) 中学校10人(教員6人)	校長1名(中学校)が小・中を兼任。教頭は中学校のみ。（乗り入れ）